

似非科学 (疑似科学) だが、信じる者は救われる (かも?)

紫雲寺小学校 茂呂 良彦

ひとつ前置きですが、この文章は特定の企業・団体・個人を非難するためのものではありません。また、この文章の内容を実行した結果、あなた、もしくはあなたのメンバーが捕えられ(?)、あるいは不利益をこうむっても、当方は一切関知しませんからそのつもりで。なお、この文章は自動的に消滅しません。

似非科学というものが存在します。疑似科学と呼ばれる事も多いです。

例えば、ゲルマニウム。この場合は、原子番号32、半導体ゲルマニウムの電気的有効性ではなく、ゲルマニウム・ブレスレットやゲルマニウム・ネックレスや飲用ゲルマニウム等の有効性を指します。効能は科学的な用語満載で書かれていますが、だいたい信じられません。

磁気ネックレスや磁気ブレスレットの血流促進、燃費改善磁石による燃料の改質等も信じられません。磁力が影響を及ぼすものは、磁気に誘導されるものか、電気を通すものが基本です。ですから、商品の効能として上げられているものは、ほとんど信用できません。

動画サイトに上げられている、永久機関やフリーエネルギーの動画。エネルギー保存の法則から、あり得ません。だいたいが、手品の領域です。

きれいな言葉と汚い言葉を浴びせられる無生物の変化。ハンバーガーが腐らなかったとか、米が発酵と腐敗に分かれたなどは、科学の実験としての信頼性に欠ける場合がほとんどです。氷の顕微鏡写真などは、作者自身が「ポエムだと思う」「科学だとは思っていない」と、明かしています。

マイナス・イオンや波動なんちゃらも、私は信じていません。

ただ、人への効果となると、考慮しなければならないこともあります。私たちの業界で言うところの「ピグマリオン効果」です。医学界では、「プラセボ」「プラシーボ」と呼ばれる「偽薬効果」です。

新薬の有効性を確かめる時に、「新薬」と「何の効果もない薬(ブドウ糖等)」を投与すると、「何の効果もない薬」にもある程度の効果が現れるのです。このため、二重盲検比較試験(ダブル・ブラインド・テスト)を行って、有意な差異が現れるかを、確かめるのです。

つまり、本来、似非科学で効果の期待できないことも、信じている人には、ある程度の効果が出るかもしれないのです。コマーシャルで、「あくまでも個人の感想です。」などと示しているのが良い例です。

本人が信じているかは別として、教育者として、似非科学を児童に吹き込まないようにしなければ、と考えるのです。



画像と文章は関係
ありません。